

Q&A

北通り線の整備予定は

A 県道深谷飯塚線から中央通り線までを優先に整備予定

Q 東方市内の既存道路との交差点で、歩道を走る自転車と車の接触事故に対する交通安全対策は。
A 地元からの要望を受け、見通しの悪い交差点に、歩道を走行する自転車を確認できるようカーブミラーの設置を行っている。その他「交差点注意」の路面標示や立て看板なども含めて、安全対策を研究していく。
Q 常盤町地区北側の歩道整備の現状と今後の計画は。
A あかね通り交差点から東側の区間で北側歩道設置を進めている。工事延長ペースで約31%、用地買収面積で約80%となっている。今後も、用地買収が完了した箇所から工事着手し、令和2年度末の完成を目標に、事業を進めていく。
Q 常盤町地区北側の道路は、舗装面がたぎはぎだらけのようで、水がたまる箇所も多く見受けられるが、舗装をし直すことは考えているか。
A 歩道整備が全線終わった後に、車道舗装の打ち替えを実施していく。
Q 県道127号線（深谷飯塚線）



北通り線概略図

田口 英夫



スマホはこちらから

以西の整備状況と今後の計画は。
A 県道交差点から西側は、西大沼までを結ぶ区間の内、田谷市内の約41%が整備済である。今後は、県道深谷飯塚線から中央通り線までの区間を整備することで、国道407号線から県道伊勢崎深谷線までの約9.5キロメートル区間が連続的に接続されることから、この区間が優先になるものと、とびかえている。

保育料が無料である世帯の負担増にならないか

A 負担増にならないよう副食費の免除を検討する

Q 10月から3〜5歳児と0〜2歳の非課税世帯の子どもを対象に幼児教育・保育の無償化が始まる。しかし、これまで保育料に含まれていた副食費（おかず代等）が3〜5歳児は実費徴収となる。国は第3子目を徴収免除としているが、年齢制限がある。今回副食費が徴収されることにより、保育料が無料だった世帯の負担が増えると思うがどうか。
A 市の独自事業により保育料が無料だった世帯が今より負担が増える。しかし国から副食費徴収による負担増がないよう方針が示されているので副食費の免除を検討する。
Q 保育施設の事務量の増加や、保護者のプライバシー保護の観点から、市が副食費を徴収すべきだと思うがどうか。
A 地方自治法に市の所有でない現金は保管することができないとあるので、副食費は市で徴収できない。
Q 深谷市にある認可外保育施設の数と、うち指導監督基準を満たしていない園はいくつあるか。

佐久間 奈々



スマホはこちらから

A 10件あり、すべて指導監督基準を満たしている。
Q 指導監督基準以下の園も無償化の対象園となるが、市の条例で基準を定め制限することもできる。大阪府吹田市では、指導監督基準と同様の基準を定めたと聞く。深谷市でも子どもの安全を第一に考え条例で基準を定めるべきだと思うがどうか。
A 条例を制定する予定はないが、質の確保のため指導監督していく。

「平成29年教育・保育施設等における事故報告集計」の公表及び事故防止対策について

Table with 7 columns: 死亡事故の報告件数, 幼保連携型認定こども園, 認可保育所, 小規模保育事業, 家庭的保育事業, 病児保育事業, 認可外保育施設, 合計. Rows include H16 through H29 and a total row.

注：認可外保育施設利用児童数は認可保育所の1割に満たない

国産液体ミルクの災害備蓄品への導入をすべき

A 試験的に災害備蓄品として整備する

三田部 恒明



スマホはこちらから

Q 乳児用液体ミルクの備蓄は、清潔な水や燃料の確保が難しい災害時には命をつなぐ貴重な栄養源となることから、災害用備蓄として整備し、活用、啓発等も推進するべきである。
A 液体ミルクは議員の指摘のとおり、有効な備蓄品となりうるが、賞味期間が短いという課題がある。そのため、食品ロスを防ぎ有効活用する対策として、ゼロ歳児保育などで活用するローリングストック方式などの検討を行い、試験的に備蓄品として整備していく。なお、家庭での備蓄についても啓発に努めていく。

Q 統一的な基準による公会計制度改革では、行財政運営にどう役立てるかが問われている。事業のマネジメントとして公会計と行政評価は深い関連があり、事務事業評価についても改革と合わせて改善をすべき。
A 行政評価による評価情報や、公会計による財務情報は、予算編成をはじめとした行財政運営上も、市民への説明責任を果たす上でも大変重要な情報である。財務情報の活用方法や対象事業等については、国の動向等注視しつつ研究を重ねていく。

公会計制度と行政評価システム

Q 総務省の統一的な基準による財務諸表作成・公表に取り組み、現金以外の資産や負債の情報欠如を補い、財政の透明性と情報共有化に努めている。公会計改革の成果への認識は。
A 現金支出を伴わないコスト情報と保有する固定資産の把握が出来たことが成果である。



Q&A

A 高年齢者の交通事故防止対策を一全国的に交通事故死者数は減少

Q 犬のフンに関する苦情件数は。
A 昨年度20件ほどの相談があった。
Q 他市ではフンを放置した飼い主に対し、注意喚起する方法の「イエローチョーク作戦」が効果を上げていると聞く。本市でも取り組んでほしい。
A 効果が期待できることから、ホームページ等で市民へ周知を図っていききたい。

A 更に市民への周知を図り蔓延を防止したい

五問 くみ子



スマホはこちらから

Q 特定外来生物クビアカツヤカミキリの市内の被害状況は。
A 平成29年度以降、毎年被害が確認されている。
Q 被害木発見後の対応は。
A 成虫はその場で捕殺し、被害木へはフラスの出ている穴に殺虫剤の吹き込みと、拡散防止用にネットの巻き付けを所有者にお願いしている。
Q 個人への負担軽減策は。
A ネットの配布を検討したい。

傾向にあるものの、65歳以上の高齢者の占める割合は高くなっている。
昨今、高齢者の操作ミスによる交通事故が社会問題となっており、免許証返納も交通事故の減少には必要と考える。本市の自主返納者数は。
A 平成30年中が424名、今年1月から4月までは154名である。
Q 返納者に対し、市の独自補助は。
A コミュニティバス「くるりん」の乗車時に50%の割引をしている。



見かけたら環境課へ